

武中の風



<発行>
鹿児島市立
武中学校
鹿児島市武 3-42-1

職業観は桃のアルバイト

校長 前田 浩二

私が働くことの意義を真剣に考えるようになったのは、大学からでした。山梨県の大学に進学した私は、一年生の夏休み、部活動の先輩に誘われて、桃の共選場でアルバイトをすることにしました。山梨県は、桃の生産量が日本一です。その桃の出荷最盛期に雇われたのです。私の仕事は、生産者が持ち込んだ桃を選果場所へと続くベルトコンベアに載せていくことでした。桃がびっしりと詰まったコンテナは結構重く、二箱重ねて運ぶと、大体15kgぐらいありました。朝、背丈ぐらい高く積み上げられたコンテナの山が、広い集荷場いっぱいにはびこっています。それをたった二人で二箱ずつ地道に運んでいく気の遠くなるような作業でした。いつしか、「時給〇〇円では、この仕事は割に合わない。」という思いばかりが膨らみ、ゆっくりと運んだり、コンテナの陰に隠れて休んだり、手を抜くようになってしまいました。

ある日、アルバイト仲間から親しみを込めて「指令さん」と呼ばれていた選果作業の監督から私は呼び出され、

「前田君、今のままでいいの？君らしくないような気がするけど。」とだけ言われました。仕事ぶりを見られていたのです。私はとても恥ずかしくなりました。何かと気にかけて自分に声をかけてくれていた指令さんを裏切ったような気持ちでした。

それからは、手を抜かず一生懸命に働きました。一生懸命に働いていると、今まで気付かなかったことが見えてきました。桃は傷みやすく、早く持ち込まれた桃は早く選果しなければならぬのですが、運びやすいところからベルトコンベアに載せていては、持ち込まれた順番が狂ってきます。そこで、桃が傷まないように段取りを考えて作業を組み立てるようになりました。そうすると仕事がおもしろくなり、仕事が苦にならなくなってきました。そして、いつのまにか、大事に桃を育ててきた生産者のことを第一に考えて働いている自分に気が付きました。生産者がトラックから桃を降ろす作業も自然に手伝うようになり、多くの方と親しくなれました。その上、何よりも桃が大好きになりました。もったいない話ですが、熟れた桃は出荷できず、ライオンから外されていきます。その出荷できない食べ頃の完熟桃は食べ放題でした。毎日、休み時間になると十個程の桃を果汁を滴らせながら丸かじりしましたが、それは例えようもなく甘くおいしいものでした。



結局、私は夏休みの桃のアルバイトを四年間続け、大学でアルバイトを募集する役も任せられました。今でもこの経験が私の職業観をつくってくれたと思っています。

以上のことを二学期の始業式で話しました。生徒たちは、お金はもらわないのですが、学校生活の中に、生徒会活動、係活動、清掃・・・など、働く場がたくさんあります。自分の役割を自覚して、人のために働くことが自立の第一歩です。学校生活をとおして早くから働くことの意義について考えてほしいと願っています。それにしても、あんなにおいしい桃に、その後出合っていないません。

躍動感あふれた 第七十七回体育大会

「団結く二色で築く新たな歴史」のスローガンの下、盛大に体育大会が行なわれました。各団の応援が選手の手になり、全力で競技を行なっていました。結果は、競技部の部優勝紅組・応援部の部優勝白組でした。保護者の方々の温かいご声援ありがとうございました。

体育大会トピックス



吹奏楽部定期演奏会

九月二三日にサンエールで行なわれました。三部構成になっており、九州大会で演奏した曲やポップスから演歌まで幅広く演奏して、ダンスや唄も交えながら観客を楽しませてくれました。武と田上の文化祭やユースドリームフェスティバルにも出場します。ぜひ、お越しください。

